

日本ルワンダ学生会議

2021 夏企業訪問合宿

9月20日～22日

2回連続で延期となった招致事業に代わり、日本とルワンダの相互理解を促進するものをとのことから企画されました。

実行委員長 小日向麻優

本資料文責 吉野匠人

日本とルワンダを繋ぐ仕事から両国の未来、メンバーの将来を考える。

目次

- 1 : 実施の趣旨
- 2 : 参加メンバー
- 3 : 日程
- 4 : 写真
- 5 : 参加メンバーの感想
- 6 : 注意事項

1：実施の趣旨 ～ルワンダと日本の架橋から学ぶ～

○コロナ禍の「相互理解」を追求して

本来、2021年度の夏は2020年に実施できなかった第19回本会議を日本で実施する予定でした。しかしながら、新型コロナウイルスの感染拡大は収まることはなくこの夏も招致事業は実現できませんでした。このままでは、私たち日本ルワンダ学生会議は「相互理解」という理念を実現できません。どのようにすれば日本とルワンダの距離を縮められるのか、互いに学び合いより良い方向に向かっていけるのか。コロナ禍でより柔軟な思考が求められました。

○日本で一番ルワンダに近い場所に行く

日本ルワンダ学生会議は今まで、実際にルワンダに渡航することでルワンダを理解し日本社会に発信してきました。また、同様にルワンダ人は日本を訪れ日本を理解し、日本からアイデアを吸収していました。しかし、私たちは日本の中にもルワンダに極めて近い場所があることを知りました。それは、ルワンダ・日本のために働く企業です。そこで働く方々はルワンダと日本の架橋です。その架橋である方々にお話しを伺うことで、相互理解に繋がることに気付きました。その企業の方々は、日本人の多くが知らないこと、ルワンダ人の多くが知らないことを知っています。それを発信することで、両国の距離を縮めること、両国が違うに学ぶことに繋がると思ったからです。

○私たちが架橋になるためにヒントに

さらに私たち学生は、将来的に相互理解を仕事にすることができます。さらに、私たちはそれを仕事にしたいとも思っています。しかし、多くのメンバーがその具体的なイメージをつかめていません。そこで、実際に「架橋」として働かれる人々を見に行くことで、より建設的な将来設計に繋がると思っています。日本ルワンダ学生会議が、新たな架橋を生み出す土台となればと思っています。

～今回の実施目的～

- ①招致事業の代替事業として、日本・ルワンダ間の相互理解を促す。
- ②ルワンダに関して学生会議ならではの現地発の情報を発信する。
- ③日本サイドの国際貢献に関わるキャリア形成に活かす。

2：メンバー

～中心メンバー～

- 小日向麻優（プル）：夏合宿実行委員長、JICA 様担当
- 吉野匠人（ミディ）：Rexvirt 様担当、ルワンダ人対応
- 山崎優菜（エテ）：Dive into code 様担当
- 北島円香（ミミ）：ディスカッション運営、宿泊者サポート
- 福田敬祐（キース）：ミーティング運営

～サポートメンバー～

- 木菱美玲（カカ）：広報担当
- 本木美瑛（シュクラン）：企画担当
- 椿梨沙（ダーシン）：企画担当

*今回参加者はじゃるわネームを決めました。（ ）内の名前です。

3 : 日程

9月20日月曜日（祝日）

14:30 宿泊メンバー集合 @上野駅

14:30 買い出しなど

・翌朝の朝食

15:00 チェックイン

チェックイン次第休憩

17:00-18:00 ミーティング（オンライン接続）

内容：翌日の訪問確認

18:30 夕食

21:00-22:30 勉強会（オンライン接続、イベントメンバー参加可）

内容：仕事と国際貢献についてのディスカッション

23:00 就寝

9月21日火曜日

7:00 起床・朝食

9:00 出発（徒歩 35 分、もしくは日比谷線仲御徒町⇒秋葉原乗車し 25 分。）

9:45 REXVIRT 到着 住所（東京都千代田区神田淡路町 2-4 ユニオンビル 3 階）

★キースは 40 分まで（厳守）に現地につく。45 分になったら一緒に
入れるように。

10:00-11:00 REXVIRT 訪問活動（詳細ページ参照）

11:30-12:30 昼食 @秋葉原

⇒宿泊先にキースが入れなさそうならここで解散。

12:30 宿泊先へ移動（30分）

13:00 REXVIRT 振り返り

・振り返りの仕方：感想を twitter、instagram、facebook に投稿する。

14:00-15:30 親睦を深める（トランプなど）

15:30-16:30 Dive into Code 準備（エテとオンライン接続）

17:00-18:00 Dive into Code オンライン訪問（詳細ページ参照）

18:00-18:45 Dive into Code 振り返り

・振り返りの仕方：twitter（1人）、instagram（1人）、facebook（1人）、
公式ライン（1人）に投稿する。

19:00-20:00 夕食 @上野

・帰りに翌朝の朝食を買う

20:00-21:00 JICA 準備（オンライン接続）



スーパーリアファミリールーム《上野駅徒歩5分・キッチン・Wi-Fi・加湿機能付き空気清浄機完備》
Minnさんの個室



月曜日
2021年9月20日
チェックインは15:00から

水曜日
2021年9月22日
10:00までにチェックアウト

[全旅程表を見る](#)

住所

1-chōme-19-5 Higashiueno, Taito City,
Tokyo 110-0015, Japan

[道順を確認](#)

21:00-22:00 OGの白河さん（タンザニア在住）とオンライン対談

23:00 就寝

9月22日水曜日

7:00 起床・朝食

8:30 出発

10:00 東京メトロ 仲御徒町駅⇒市ヶ谷駅。

・オレンジ色の改札を出す

10:30-11:30 市ヶ谷駅でミーティング

11:40 JICA 本部

12:00-13:00 JICA 訪問（詳細ページ参照）

13:00-14:00 JICA 内の食堂にて昼食

14:00 早稲田大学へ移動（飯田橋経由、15分）

14:30-16:00 振り返り&ディスカッション

・ JICA の振り返り：Rexvirt の時と同様

・ 全体の振り返り：参加者は感想をまとめて（ワード1枚前後）提出

17:00-18:00 早稲田大学周辺でごはんを食べる

18:30 早稲田駅にて解散

4 : 写真



5：参加メンバーの感想

国際貢献を仕事にすること

日本ルワンダ学生会議代表 吉野匠人

今回の企業訪問合宿を通して、「仕事と国際貢献」について多くの学びを得た。ここに、この3日間を通じた発見をしたためる。

私は今年、大学3年生になる。大学では国際開発を専攻し、国際貢献については人よりも学習している自負がある。しかし、国際貢献をどのように具現化するのか、国際貢献はどう仕事にできるのかに関しては無知であった。3年生ということもあり大学の友達とは日に日に就活に関する話題が増えていた。そこで、大学での学び、学生会議での活動、将来の仕事を結合させる必要性を感じた。そこで今回は国際貢献の先輩の仕事を検討することに決めた。他人事から自分事を考えるのが今回の企画であった。

実際訪れたのは Rexvirt(ソフトウェア・オフショア開発・コンサルティング)、DIVE INTO CODE (プログラミング事業)、JICA に訪問した (敬称略・以下同)。それぞれの企業で、国際貢献に対する姿勢や行動が大きく異なっていた。それぞれの企業の話の中で痛感したことをまとめる。

ソフトウェア・オフショア開発やコンサルティングを営む Rexvirt の方は次のような姿勢で仕事と向き合っていたように思える。それは、できる事の中からしたい事を見つけ、それを活かして自分を利する過程が結果的に他者に貢献することになるというものである。印象的であった発言の中に、「やりたい事と、しなければならない事には常にギャップがある」がある。つまり、やりたい事のみでは「食っていけない」ということである。そこで、まずは「できる事」を見つける必要がある。そのできる事を起点にやりたい事を見つけていく。そして、ビジネスの中でお金を稼ぐということは意図せずとも国際貢献に繋がるということも教わった。ビジネスは雇用や消費を生み出す。アフリカでビジネスをすること自体がアフリカに貢献することになる。ビジネスと国際貢献の間に繋がりが見出せた。

次に話を伺った Dive into Code の方からは、国際貢献に対するモチベーションを維持するためには、自分の愛することをすることが必要であると教わった。つまり、「好きこそものの上手なれ」ということだろう。私は、国際貢献を生業にしたい一方で、そのモチベーションを生涯にわたって維持できるか不安であった。DIVE INTO CODE の方にそれに対するアドバイスを伺った。すると、ルワンダ人社員の方に「Do what you love」と言っていただいた。愛することをして続けることで常に前進することができるのだという。私はこの言葉を聞き、自分のやりたい事・しなければならない事を愛することが肝要だと理解した。原動力である「好き」「愛」を増やすことこそ、人生において重要であると学んだ。

最後に JICA の方にお話を聞いた。そこでは、調査・知識の重要性と、現地目線に立つ寛容さの必要性を学んだ。JICA は相手国政府と協力して相手国民の真のニーズを調査し、的確に支援を行っていた。その背景には執念深い調査があり、そこで得た知識がフル活用されていると感じた。同時に、常に現地目線に立ち、自分たちの意見を押し付けない謙虚な姿勢で国際貢献に励んでいるという点も感じた。その謙虚さを失った瞬間に国際貢献は失敗すると感じた。国際貢献における謙虚さの重要性を認識する機会となった。

以上のように、3社への訪問から多くのことを学ばせていただいた。特に、まずは自分のできることから考えること、自分のしていることを「好き」になる大切さ、国際貢献に必要な「謙虚さ」を痛感する企画となった。今後、近い将来に私は仕事の場に身を移すことになる。その中で、今回の学びを活かしていきたい。

最後になりますが、今回訪問を受け入れてくださった企業の皆様には心からの感謝を申し上げます。誠にありがとうございました。今回の学びを将来社会に還元して参ります。

夏合宿報告書

本事業実行委員長 小日向 麻優

はじめに訪問した企業は Rexvirt 様で、この会社はルワンダでのオフショア事業とコンサルティングを手掛けている。Rexvirt 様からは国際協力を仕事にするうえで重要な考え方を学んだ。仕事として成功するためには、誰かの役に立ちたいから何かを開発するのではなく、開発した何かの結果的に誰かの役に立ち社会貢献につながるというマインドセットが必要であるといったものである。

次に訪問したのは DIVE INTO CODE 様という、ルワンダでプログラミングスクールを開き、IT 人材の育成を進めている企業である。ここで一番印象に残ったことは、現地の女性社員の仕事を選んだ理由と他の現地人社員の仕事への熱意である。女性社員は高校生までは教育を学んでいたが、当時ルワンダでは IT 分野で活躍する女性が少なく、また女性ができるものではないという考えが広がっていたという。そこで彼女は、女性も IT 分野で活躍できるということを男性・女性ともに対して示そうとその分野に足を踏み入れた。自分が周りに与える影響について考えたことはなかったが、似たような環境にいる自分も彼女のように、工学分野における女性の進出に良い影響を与えられるようになりたいと初めて感じた。後者の現地社員の自分がやることを愛すること、自分が好きなことをやることが大事だ、という言葉はシンプルではあるが後述するように自分の進路決定の考え方を変えた。

タンザニアの旅行会社で働く白川さんと交流する機会もあった。白川さんは前述した2つの企業に勤められる方とは少し異なり、タンザニアで生活している今を大切に生きており、

目の前の仕事に熱心に取り組んでおられた。自分とは違うタイプの方で、刺激となった。

最後に訪問した JICA 様では、ルワンダの現状に関して詳しく学び、実際に国際協力の経験がある方から、どのような課題があり、どうアプローチし、今後はどういう形で支援を移していくのかを具体的に学んだ。

今回の夏合宿での交流を経て考えた自分の進路設計について、最後に述べたいと思う。以前は、将来の目標の大前提としてアフリカでエンジニアとして働くというものがあつた。そのために、大学では自分が興味あるエネルギーが学べるコースに進み、研究室はアフリカで役に立ちそうなことをしているという基準で選ぶと思い、エネルギー分野の中で特に興味があるものはなく、探そうとしてもいなかつた。例年同学部の学生の大半が大学院に進学するため、自分も何となく進学するのだろうと考えていた。しかし、実際に働いている方々からのお話を受け、現地で役に立つ技術を学ばなければならないという思いにとらわれていたがそれはいったん置いておき、まずは自分のやりたい、好きだと思える研究を探す。そして、専門性を高めるために自らの意志で大学院に進む。その結果、現地で働いたときに役に立つことがあればよいと思う。

ルワンダと IT 教育

京都外国語大学 2 年 山崎優菜

Google で「ルワンダ」と検索すると、必ず提案されるキーワードは「大虐殺」だ。ルワンダという国をあまりよく知らない人も、「大虐殺」があつた国という事実は知っていることが多い。しかし、今ではルワンダが「IT 先進国」になりつつあることを多くの人は知らないだろう。私は今回の Dive into code 様への企業訪問を通して、今まで実感できなかった「大虐殺があつた国」から「IT 先進国」へのルワンダの変革を感じた。訪問させていただいた Dive into code 様は日本とルワンダにて IT 教育を行っている企業である。非常に感銘を受けたのは、ただ IT 教育を行っているだけではなく、ルワンダの自校の卒業生を教師や職員として採用していることだ。貴社は教育のみならず、雇用も産み出している。ここに国際連合が掲げている「持続可能な開発目標」の正解を垣間見た。さらに、ルワンダ人の女性職員である Amina さんは「ルワンダの女性に女性でも IT 企業で活躍できることを証明したい」と力強いコメントをしていた。彼女は必ずやルワンダの女性の社会進出における象徴となるであろう。私も将来「アフリカの貧困問題を解決する」という目標を達成するために、日本ルワンダ学生会議や大学での勉学を通じて自己研鑽していきたい。

継続的に国際貢献に関わるキャリアの在り方

慶應義塾大学 3年 福田敬祐

今回の企業訪問合宿の内容とそこで得た学び、総括について順に記述する。

最初に会社に訪問した Rexvirt 社はルワンダでのソフトウェアのオフショア開発やコンサルティングを行っている会社である。そこで社員の方が仰っていた内容の中で印象に残っていることは、「ビジネスが目的で国際貢献のためにやっているわけではない。けれども、ビジネスが結果的に現地への貢献になる」という言葉だ。国際貢献というと非営利、または採算を考えない活動も多いが、持続的という観点からは、Rexvirt 社の社長が仰る様な事も重要であると感じた。

その次にオンラインで訪問したのが、DIVE INTO CODE 社で、こちらはプログラミング事業の会社で、実際にルワンダ人にプログラミングの教育を行なっている。DIVE INTO CODE 社の方は、やりたい事や好きであるという事から生まれるモチベーションこそが国際貢献に関わり続ける上で大切であると仰っていた。こちらもまた、国際貢献に対する考え方として、大切なものだと考える。

最終日は、JICA の本社に訪問した。そこでは、OB の日本ルワンダ学生会議の元代表でヨルダンなどを担当していた職員の方や代表ルワンダの担当の職員の方、人材開発の担当の部署の方を交えてお話を伺った。共通していることは、徹底的な現場主義であった。現地の状況を分析し、そして現在の課題と長期的なスパンから考えてその国にあった計画を実行しているという事だった。

この3社を訪問して、それぞれ価値観は異なれど、国際貢献を持続させるためには、長期的に続けるための軸を持っているということだ。

自分の中で、より咀嚼してまとめていきたい。一番近いのは Rexvirt 社の方の考え方である。

貴重なお話を伺う機会を頂きました3社に感謝を申し上げます。誠にありがとうございました。この学びを当団体、及び私のキャリア選択を通じて社会に貢献出来るよう精進して参ります。

6：実施上の注意事項・感染予防対策

- 宿泊するメンバーは事前に PCR 検査もしくは抗体検査を受けること。
- 荷物はなるべく小さいほうが望ましい。

～感染予防対策～

対面の活動に際し、感染予防対策は万全を期しました。

具体的な感染予防対策として、

- 参加者はワクチン接種済（強制はしていません）、参加前に PCR 検査等で陰性を確認
- 宿泊するメンバーは最小限に留める（中心メンバー 3 人）。ほかのメンバーはオンラインでの参加。
- 状況次第でオンラインに切り替える態勢にする。
- マスク着用や消毒、禁酒、黙食、ソーシャルディスタンス等の基本的な感染予防対策の徹底